

令和 6 年度 学校評価シート

学校名：和歌山県立有田中央高等学校 校長名：村崎 隆志

目指す学校像・育てたい生徒像（スクール・ポリシー等に基づいて記載する）
「地域社会の中核を担う若者を育てる」
・社会人としての学習や生活の基礎基本を身につけ、自らの課題解決に取り組むなど、生涯をとおして学び続ける姿勢を身につけた生徒。
・自己有用感をしっかり持ち将来に向けて前向きに行動するとともに、地域社会の中核を担っていく自覚と覚悟を身につけた生徒。
・自己と他者を尊重し、多様な在り方を認めることができる正しい社会性を身につけているとともに、状況に応じて自ら判断し、主体的に行動ができる生徒。
・望ましい倫理観を身につけているとともに、学習指導や生徒指導の助言を素直な気持ちと向上心を持って受け入れ、適切な言動がとれる生徒。

現状・進捗度	A	十分に達成している。（80%以上）
	B	概ね達成している。（60%以上）
	C	あまり十分でない。（40%以上）
	D	不十分である。（40%未満）

学校評価の公表方法
年度末に生徒・保護者・職員等の学校評価結果を関係者に知らせるとともに、学校のホームページに掲載する。

自己評価（分析、計画、取組、評価）							
番号	計画・取組				評価（2月25日現在）		
	重点目標	現状	具体的取組	評価項目と評価指標	進捗度	進捗状況	今後の改善方策
1	知識基盤社会に必要な学力獲得に繋がる学習指導の構築と社会の中核を担う若者の育成に直結したキャリア教育の充実	B	ICTを活用した授業を積極的に取り入れたり、ICTに係る研修会に参加したりし、ICT教育の充実を図る。 少人数授業等により、基礎学力の定着を図るとともに、学力の高い生徒への支援の方策を研究する。 「産業社会と人間」、「総合的な探究の時間」をキャリア教育の中心とし、生き方・在り方を深めさせる。	全教員が研究・公開授業を年2回以上実施。また、授業改善WGによる校内研修を実施。 年2回の到達度テストにおいて、基礎学力の定着がみられるか。 3年生の進路決定率100%。1、2年生の進路意識の向上がみられるか。	B B A	10月に公開授業の期間を設け、校内研修も実施。ICT教育については取り入れる機会が全体的に増えている。 補習を行ったり、自習室を解放したりし、学力の高い生徒への支援を行った。 生き方・在り方ゼミやインターンシップなどのキャリア教育を充実させ、生き方・在り方を深めさせることができた。	学力の高い生徒への支援を引き続き、研究していく。ICTを活用した授業展開が浸透しつつあるので、さらに現職教育等を行い、学校全体のものにしていく。キャリア教育については、見直しを図りながら、引き続き充実させる。
2	自らの将来や社会全体を意識した行動規範の確立と自他の可能性を尊重し合い、希望に溢れた学び舎の創造	B	自己理解や他者理解について、様々な場面で話をし、その大切さに気づかせる。 部活動の活性化やボランティア活動への積極的な参加を促す。 教員一人ひとりが生徒と真摯に向き合い、生徒の課題克服に向け、組織的に対応する。	定期的にあせむぶリーを実施。学校評価アンケートにおいて、昨年度の数値と比較する。 年間を通じて部活動参加率80%以上。ボランティア活動に積極的に参加。 迅速にケース会議を開催し、適切な対応ができているか。	B B A	あせむぶリーでは、しっかり話を聞けている。学校評価アンケートでは、全体的にプラスに数値が上がっている。 運動部の部員数が増えた。学校内で他の部活動部員との交流を図った。ボランティア活動に積極的に参加した。 迅速にケース会議を開き、組織的な対応ができています。関係機関との連携もスムーズに取れている。	支援を必要とする生徒が年々増える中、小さな人間関係のトラブルが多い。生徒一人一人にきめ細かい支援を行い、引き続き自己理解や他者理解を深めさせる。生徒会活動や部活動の活性化については、継続して取り組み、学校全体を盛り上げる。
3	教員の資質向上を伴った効率的、組織的な学校運営と学校外の活力をいかした教育活動の充実	B	各分掌や各学年において、また、分掌と学年間において、情報共有をしっかりと行い、適切で効率的な運営を行う。 農業・福祉系列を中心に地域と連携した取組を進め、本校の魅力を発信する。	業務が見える化し、効率的な運営につなげているか。分掌長と学年主任は連携を密に取れているか。 学校運営協議会、PTA、同窓会との連携。ホームページの充実。	B B	業務の見える化は進んでいる。分掌長と学年主任は昨年以上に連携を取ることができた。 地域との連携は深められている。ホームページの充実等、魅力の発信をさらに強化する。	校務分掌間や学年と分掌との連携をさらに深めていく。また、地域との連携についても継続して力を入れていく。広報については弱い部分なので、強化していく。

学校関係者評価（2月25日実施）
○ 授業を参観したが、みんな熱心に積極的に授業へ参加していた。 ○ 農業・福祉系列や部活動において、積極的に地域との交流を深めている。今後も活発に交流してほしい。 ○ 進路実現に係る生き方在り方ゼミやインターンシップでは、年々生徒の取り組む姿勢が良くなっている。卒業生の今後の活躍が楽しみである。 ○ 地域連携の一つとして、有田川町主催の「第3回ありだがわ楽市」を品評会と同時開催で行ったが、今年度も大盛況だった。来年度は学校行事として、全校生徒が関わるとのことなので、学校と実行委員会が連携して、より充実したものにしてほしい。 ○ 品評会については、広報の仕方や内容を精査し、さらなる盛り上がりを目指す。 ○ 生徒数が減少している中ではあるが、生徒会活動や部活動がんばっている。特に運動部の部員数が増加傾向にあるのは嬉しいことだ。 ○ 有田中央高校の取組や雰囲気を見ると、地域に根ざした学校になってきている。今後も地域との繋がりを大切にしていきたい。 ○ 学校評価アンケートの結果は、生徒、保護者、教職員の全てで高評価であった。ただ、課題も見えているので、学校全体でそれらの課題に対応して欲しい。 ○ 学校の魅力をもっと伝えられるように今後さらに広報に力を入れてほしい。